



第 58 号

月 | 回 発 行

ひの心を継ぐ会

〒799-1336

住所:愛媛県西条市

上市甲 720-1

TEL:080-2986-0856

領 綱

- 私達は明德を明らかにします
- 私達は国家の鎮護となります
- 私達は大和世界を建設します

古事記

天地の初発のとき

— 実在—(六)

反省的方法—

— 存在論、アリストテレス(三)

竹葉 秀雄

アリストテレスの第一哲学の場合を今少し出隆氏のもので見ておく。事物の生成変化は、それぞれの質料の内それぞれの目ざす形相(目的)がある動力因によって実現される過程である。一定の事物については、この生成過程は無連続的でなくて、一定の終り(目的)をもっている。サルはサルを人間(親)は人間(子)を生む。生物の生成過程は同種の他者(仔—こ)を生むことによって一応完了する。しかもこの他者はまた同類の他者(孫—まご)を生み、かくして非連続的連続の永遠運動をなす。これは植物でも動物でも天体の円環運動でも同様で、世界のいっさいはそれぞれ一定の終りをもちながら同様の過程を永遠に繰り返す。しからばこの世界の永遠運動の究極の原因は何か。ここでアリストテレスはこの世界のいっさいの質料の内ではなしにその外に(世界外に)ある超絶的な第一原因を求め形而上学者となりプラトン主義者となる。彼は永遠運動の第一原因として、またいっさいの可能性を現実化する終局的原動力として、自らは動きも動かされもしないで他の一切を動かす「不動の動者」があるとし、これを「神」とも呼んだ。どのようにして一切

を動かすか。この問いに対し、あたかもサクラの花が自ら招かないで見物人を引き寄せるように、動かないで動かすと答える。思慕の対象が思慕する者を動かすように動かないで動かすと答える。ここに彼は、可能的で受動的な(肉体と結合せる)理とは別に、質料から全く離れた「非受動的理性」(後世の所謂「能動的理性」)があり、これがわれわれの理性をして思惟させるとした。(思惟をして思惟せしむるものはプラトンのイデアとしてよく、天之御中主神の作用である。)そしてこれこそは質料(可能性)を全く含まないで常に現実的に思惟している永遠不死の靈魂であるとした。出隆氏はこれについて、実は具体的にはなにものも思惟せずなんの働きもしない空想物であるが、これが中世から近世にかけての「靈魂不滅」の問題の種となった。「能動的理性」の原形であり、靈肉二元観はこれで新たな根拠を得たとしている。がこれを直ちに空想物としてよいか、浅慮を免れないと思う。また、動かずして動かすもの思想は奴隸的都市国家の支配者の学であったとするか、之は「政を為すに徳を以てするは、譬えば北辰の其所に居て而して衆星の之に共(むかう)るが如し。論語為政篇二」の徳治政治の学とも考えられるものである。

農士道

第五章 農士論

第三節 農道的自覚

菅原 兵治

何陋軒記

王陽明は明代の哲人である。(皇紀二二三二—二一八八、足利義政時代)彼は当時の人々が徒らに訓詁記誦の学に墮するを慨して、所謂「陽明学」の開祖となり、知行合一の英霊底教学を起した人である。(我国では中江藤樹、熊澤蕃山等がこの学派の流を汲んだ学者である)けれ共彼は単に書齋の中にとじ籠る所謂「哲学者」ではなかった。彼は種々の官途について行政官の仕事もし、又時に三軍を率いて逆徒の平定に遠く山野に戦い、又、或る時は流謫の夷地に自ら耕耘もした。彼は実に生死の間に事上磨練を積める行政官であり、軍司令であり、而して偉大なる哲人であり、時に又懐しき野人の父でもあった。壮年の時彼は中央政府に在つて兵部主事の職にいたが、時の天子側近の奸臣共が余りにも我儘な振舞をなすのに憤つて、自ら上疏してこれを痛論した為、奸臣共の怒に触れて投獄せられ、後獄より出されて、思切つて辺鄙な貴州龍場の駅丞に左遷せられた。我国でいうと和氣清麻呂や菅原道真にも似ている。時に彼は三十六歳であった。然もこの間に於て彼は従容自適、常に天を楽しんでいた。左に訳出する何陋軒記は其時に於ける彼の心情の活ける記録である。

顧みて現下の我国を返照する時、都門に蠢動(しゅんどう)する軽薄児の輩はよく「田舎では……」「田舎の人は……」と口を開けば農村をいかにもさげすむようにいう。農村のものも亦「東京では……」「都では……」と余りにも都会賛美に酔うている。深く慎思して、果して田舎はそれ程陋にして、都会はそれ程善美なりや。西洋心酔からそろそろ醒めつつある吾々は、都会心酔の幻惑からも亦そろそろ脱していいであろう。この記中にある陽明先生の所謂「夷地」は現代人の考えている「田舎」「農村」と見ることが出来るであろう。然る時、私共はこの記を味読することによって、それらの点について大いに啓発せられるのを覚える。

今年の鍛錬 呼吸法の習得

三浦 夏南

年初に一家の目標を立てているが、今年の修養目標の一つとして、呼吸法の習得を掲げている。その理由は、昨年崎門学を学んで行く中で、修身においては知情意三面の工夫が重要であることが、改めて強く感ぜられたからである。知情意三面の工夫とは、知仁勇三徳の涵養と言つても良い。これまで知を明らかにし、正しい道を弁別することは集中して学んできたが、意と情を制するにあたっては、精神の鍛錬と並行して身体的鍛錬を積んで行かなければならない。その中でも中心となってくるのが肚を練ることである。

生理学の研究によると、みぞおちの裏には自律神経の集合体があり、肚を鍛錬して上腹が柔軟であり、下腹が強靱になっている人は、この自律神経も同時に鍛錬されているという。そしてこの腹部の自律神経は、感情の抑制装置ともなっている。現代の人々が頭では分かっているが、喜怒哀楽の感情を抑えることが出来なかったり、私意私欲を我慢することが出来ない原因はここにある。上腹が硬化し、下腹は軟弱化しているのが、自立神経の働きも不順であり、ふとしたことにも腹が立ったり、少しの不安が大きな悩みになったりする。西郷南洲が驚かされても、驚いたと口では言うが、体は全く動揺をみせなかったとの逸話があるのも、肚の鍛錬が完成していたからであろう。鈍くて驚かなかつたのではない、驚くべき事実には瞬時に反応し、危険を察知しながらも、肚の神経がそれを抑制し、肉体には動揺の迹を見せなかつたのである。我々が目指すべきは、感情を起こし表現することもできない臆病者や虚弱者ではない。溢れんばかりの喜びや怒りに満ちながらも、それを肚で堪えて、表情一つにも出すことのない剛毅なる人物である。

その為には肚を練る必要があるのだが、勿論日々の生活や農業の仕事の中で培つたり、武道の修練の中で、自然に養われるのが本筋であろう。しかし、近代的な文明生活の中で、体の本来の扱い方を忘れてしまつている現代の我々は、全ての動作の土台である呼吸の方法から学び直さねばならない状態にある。それこそ本来柔軟であるべき上腹は硬化し、強靱であるべき下腹は軟弱化しているのが、正しい呼吸をすること自体が不可能な身体環境になってしまつている。それを矯正し、正

しい呼吸の感覚から掴み直すことから再出発しなければならぬ。
悪い癖が付いている身体を自己流で矯正することは不可能なので、中高生にスポーツをしていた頃から縁のある、明治時代に藤田靈齋先生の開かれた調和道丹田呼吸の指導員の方々に指導を受けながら、改めて身体の鍛錬に取り組んでいきたいと考えている。

とよくも農園だより

明けましておめでとうございます。今年の元旦は、早朝に八人揃って参拝し、主人の実家のある宇和町のしきたりに倣って数え年分のお米等を食べ、それぞれが一年をとりました。

飼っている鶏達がようやく卵を生み始め、毎朝子供達と餌やりに行くと、産卵箱には十個程の卵があります。毎朝餌を計量して籠に入れて持っていき、卵の数を数えるのが息子のお仕事として定着しています。卵かけご飯や煮卵、卵とじの味噌汁など、おいしい卵料理が食べられるようになり、食卓が充実しています。

昨年訪問した自給自足の達人を招いての、納豆ワークショップも開催しました。十四人が参加し、我が家で納豆の作り方をレクチャーしながら、それにまつわる話をして頂きました。稲わらに棲む天然の納豆菌を利用して、煮た大豆を稲わらに包んで四十度に保ち、一日半保温します。納豆菌を人工的に混ぜることなく立派な納豆が出来た時には感動しました。大豆も自分達で栽培していたので、後日自家製大豆でも作り、自家製米、卵、ネギとともに美味しく頂きました。

農閑期の冬は、カビの働きが弱く、調味料を仕込むのに最適な時期です。米糀・豆糀作り、そこから甘酒、塩こうじ、醤油づくりに挑戦しました。米も大豆も自分達で栽培していたものなので、それが形を変えて美しい調味料になっていくことに、感動しました。栽培中に作りたいたいと思っていた、きなこや豆乳、豆腐も、自分達で育てたものからできると、心と体の満足度が違います。毎朝勉強会の時に飲んでいる甘酒や、朝ご飯の豆乳ヨーグルトも、自



三浦 美恵

分達の育てた米、糍、豆乳から作れるようになり、自給率がぐっと高まりました。

アスパラガスは刈り取りを終え、バーナーで焼いたり、堆肥を入れたり、草引きをしたりといった手入れを行いました。アスパラガスは、この時期に丁寧な手入れを行うことで、暖かい時期にしっかりとした芽を出します。親戚にも手伝ってもらいながら、今年も無事に伏せこみまですることができました。来月から再来月から芽が出だすので、しばしの休憩です。

さらに今月は岡山県の NPO 法人丹田呼吸法普及会の講習会に参加し、丹田呼吸法を学んできました。詳しくは主人の文章にあります。が、「腹息心」と言っていて、腹が変われば呼吸が変わり、呼吸が変われば心が変わると言われています。これを続けると、雑念が無くなり、呼吸も深くなるそうです。腹を鍛えて精神を鍛える、「練」が今年の三浦家の目標です。今年も家族で鍛錬し、協力して自治を目指したいと思います。



★一燈照偶 万燈照國

ひの心を継ぐ会は竹葉秀雄・近藤美佐子両先生の精神を継承し、発展させることを目的として生まれた会です。一人の「ひ」の精神が周囲の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが国を照らす「ひ」になることを願い、活動を行っております。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

★年会費

一般会員 三千元
 賛助会員 一万円
 特別賛助会員 三万円
 支援会員 一万円

★振込口座

愛媛銀行 普通預金 本町支店
 口座番号 六一四二七三五
 『ひの心を継ぐ会』